民衆の声 ボイス
No.106
公明党 横浜市会ニュース
VOICEよこはま

http://www.yhkomei.com/ E-mail:shikai@yhkomei.com 公明党横浜市会議員団 〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 TEL671-3023 FAX681-2060

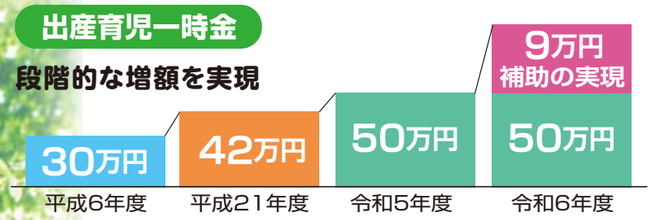
令和6年度予算案 公明党市議団の要望が実現へ！

出産費用の助成
横浜市として最大9万円を補助します。

■横浜市独自の出産費助成を実施

出産育児一時金

段階的な増額を実現



公明党の推進で出産育児一時金が段階的に引きあがり、昨年4月から50万円に増額したものの横浜市の場合、費用が高額で賄いきれないとの声を受けてきました。出産費用の負担軽減に向けて、横浜市独自に**9万円**を上限に支給します。

山中市長に要望書を提出

1月5日に、山中市長に「出産費用の負担軽減に関する要望書」を提出しました。また、能登半島地震への市の迅速な対応を緊急要望しました。

パレスチナの平和を求める決議

昨年の11月30日の議会（第4回定例会）初日に「ガザ地区における平和の早期実現を求める決議」を採決。人道目的の即時停戦、国際法・国際人権法の遵守、人道支援物資の供給、戦闘地域の不拡大を議会総意として求めることを決議しました。

■能登半島地震へ迅速な支援を！

年初に発生した令和6年能登半島地震に伴い、横浜市は1月2日に「横浜市被災地支援チーム」を発足。現在は「横浜市災害対策本部」に移行させて、職員や車両の派遣をはじめ、災害用救護物資の提供など被災地に向けての迅速な支援を行っています。

令和5年 第4回定例会における論戦より

公明党横浜市会議員
竹内（たけうち）やすひろ

公園での受動喫煙対策を早急に

市の「公園での喫煙に関するアンケート」によると、子育て世代では８割を超える人が喫煙で迷惑と感じたことがあり、子供のやけどや吸殻の誤飲など、たばこの危険性を指摘する声が多く寄せられています。その現状を鑑み、公園で子供たちが安心して遊べる環境を整えるために、市の公園を禁煙にし、公園での受動喫煙対策を早期に進めるべきと考え、市長に見解を求めました。

山中市長は「子供たちが多く利用する公園での受動喫煙対策は、市の子育て環境を整備していくうえでも重要な課題の一つであると考えている。子供たちが安全に遊べる環境を創り出し、子育て世代が安心して公園を利用できるよう、受動喫煙対策を着実に取りまとめていく」と答弁しました。

災害時の液体ミルクの備蓄を

災害時の弱者対応のため、公明党は液体ミルクの災害時の有用性や必要性に注目し、乳児の栄養確保の一策として、これまでその普及に向けて強力に推進してきました。最近は、粉ミルクと同等の賞味期限の商品も出てきています。災害時に乳幼児がいる家庭の不安を解消するためにも、地域防災拠点での液体ミルクの備蓄を令和６年度にも導入すべきであると市長に訴えました。

市長は「液体ミルクは、発災初期の授乳が容易に行えることで、乳幼児がいる家庭の避難生活の不安軽減に有効である。賞味期限が短いという課題が解消されたことから、地域防災拠点への早期導入に向けて検討していく」と応じました。

横浜市 2024障害者20歳を祝うつどい

横浜市「2024障害者20歳を祝うつどい」が障害者スポーツ文化センター横浜ラポールにて開催をされ、横浜市会健康福祉・医療常任委員長として参加をさせていただきました。20歳を迎えた155人の門出を祝福。この「障害者の20歳を祝うつどい」は、成人年齢の引き下げ直前の2022年1月までは「障害者の成人の日を祝うつどい」という名で1973（昭和48）年から半世紀の歴史を持つ成人式です。1993（平成5）年から横浜ラポールで開かれています。障害者差別解消法が改正され、この4月からは、合理的配慮の提供が、国や地方自治体だけではなく、民間事業者にも義務化されます。参加者には、「こんなとき、どうしたら?」（障害者差別解消法ハンドブック）も配布されていました。障害者差別解消法は、障害のある人への差別をなくし、障害のある人もない人も、互いを尊重し合いながら共に生きる社会を実現していくことを目指してつくられました。共生社会を実現していくためには、障害のある人への差別となるのか、どうすれば差別はなくなっていくのかという事について、一緒に考えていくことが大切です。

よこはま防災 e-パーク

いつでも・どこでも・災害の備えを身近に学ぶことが出来ます。

「よこはま防災 e-パーク」はこちらから▶

市民相談
神奈川区大口通127-16 コスガビル1F
横浜市会議員 竹内 やすひろ
TEL.045-716-6822 FAX.045-716-6823
E-mail:mail@takeuchi.180r.com

令和6年度予算案に公明党の主張が大きく反映しました！

1.子育てを力強くサポート

幼稚園・保育園の人材確保を支援

- 保育士等の処遇を改善
- 医療的ケア児受入れのための看護職員を派遣
- ローテーション保育士雇用加算を拡充（加算区分の細分化）
- 宿舎借り上げ支援の戸数を増加

児童手当の拡充

- 所得制限を撤廃、高校3年まで対象拡大、多子世帯へ増額（第３子以降３万円）

※令和6年10月分から拡充（12月に支給）

- 出産・子育て応援金(10万円分)をギフト支給
- 小学校始業前の朝の居場所づくりをモデル実施
- ヤングケアラー支援を拡充
  SNS による相談事業をスタート
- 「医療的ケア児」支援がさらに充実
  医療的ケア児サポート保育園を拡充
  （12→24 園を認定）
- キッズクラブ・学童での夏休み期間の昼食提供をモデル実施

2.防災・減災への備えをさらに強化

学校体育館へのエアコン設置を加速

- エアコンを27校、大型冷風機を10校に新設

災害時の情報伝達手段の強化へ

- テレビプッシュ設置補助をモデル実施（1000件へ）

- 防災ベッド・感震ブレーカー等の設置拡大
- 災害時の障害者支援の拡充・福祉用具の備蓄や避難場所の整備
- 備蓄品へ液体ミルクを追加（段ボールベッドも公明党の提案で備蓄されています）
- 中学校グラウンドへの夜間照明設置推進

3.教育環境のさらなる充実を

不登校児童生徒へ寄り添った支援を強化

- 中学校における教室外登校（校内ハートフル事業）を拡充（55→80校へ）

給食室へのエアコン設置を加速

- モデル校９校に設置して効果等を検証

- 学校のバリアフリー、エレベーター設置を加速（30 校へ倍増）
- 「中学校給食」がさらに利用しやすく！
  令和８年度「みんなで食べる給食」へ、配膳室整備を加速
- 学校の先生の負担軽減を推進
  清掃業務の外部委託、副校長のサポート職員を新規配置

4.誰もが安心して暮らせる街へ

防犯カメラの設置補助を拡大（150台）

- 補助上限額を16→21万円に拡大

地域交通の更なる充実へ

- 新たに12地区で移動サービスの導入検討・実証実験等を実施

- 市営住宅
  住民の負担軽減へ、共益費の徴収、草刈り等を管理者が実施へ
- 帯状疱疹ワクチンの定期接種化へ、市内での罹患状況を調査
- ワンストップの「お悔み窓口」をモデル設置（２区へ）
- 市内約 2700 公園で受動喫煙対策を実施
- 特別養護老人ホーム約1500人分を整備（竣工・着工を補助）

5.物価・エネルギー高騰対策へ追加施策

- 住民税非課税世帯へ７万円を給付
  ２月 28 日から順次支給を開始
- 横浜市エコ家電応援キャンペーン「エコハマ」第２弾実施へ、６月よりスタート

- 商店街の集客促進を支援
  プレミアム商品券を発行する際のプレミアム分および事務費の一部を補助
- 自治会支援で町内会館の断熱化、エアコン導入、LED 化を補助（補助率 2/3）

政務活動最前線

横須賀市の終活支援を視察

行政が主導して、身寄りのない方の生前の意思確認から登録までを行うなど、市民の尊厳を守る取組みで全国をリードする横須賀市。福祉専門官の北見万幸先生より、課題や成果を伺いました。

横須賀市議会を訪問（11月9日）

子ども・家庭に寄り添う療育へ

北部療育センター（11月28日）

北部療育センターの通園・診療施設等を視察し、低年齢化する相談対応の現状、求められる支援の変化や課題などを伺いました。

市大の医療研究の更なる発展を

横浜市立大学福浦キャンパスを訪れ、再生医療研究やメタバース診療所など最新の研究を聴取。また、先端医科学研究センター・新興感染症研究センターでの最新の研究現場を訪れ、今後の研究成果に期待を寄せました。

市大学長などと意見交換（1月18日）

学校施設への夜間照明を推進

地域の方と設置現場に（1月25日）

戸塚区の柏尾小学校を訪問。地域のスポーツの場の拡充と、災害時では地域防災拠点での安心の場の提供として、小中学校グラウンドへの夜間照明設置を推進しています。